

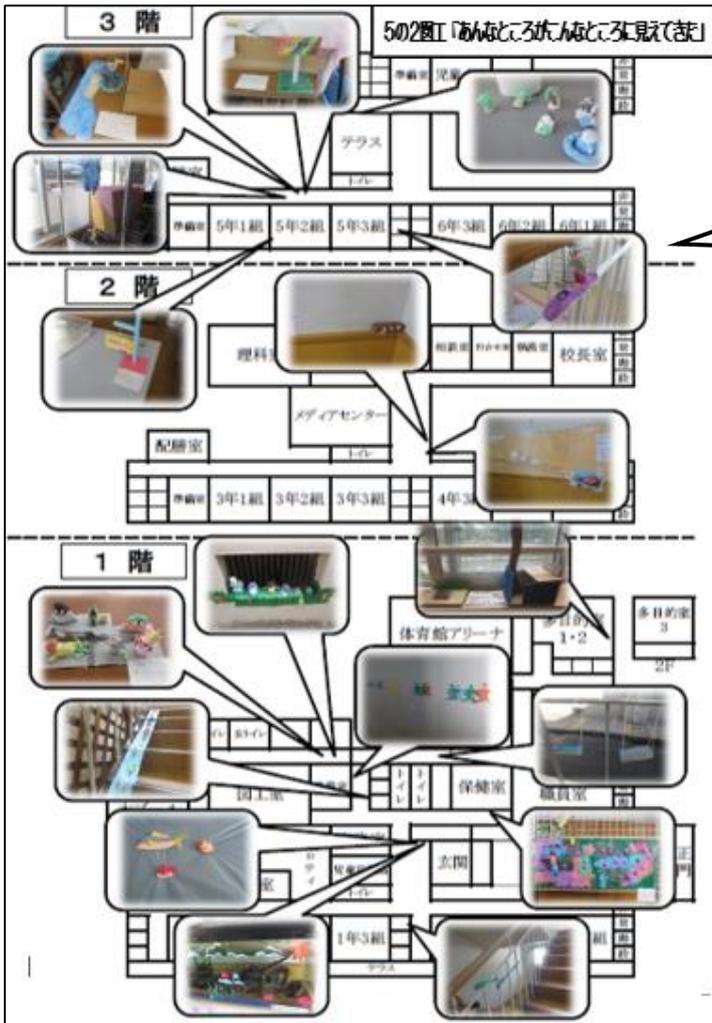
R2年度 佐賀大学教育学部附属小学校 図画工作科の取組⑤

場所との関わりと作品の発信！～校内展示～

5年生「あんなところがこんなところに見えてきた」では、校内の場所にある形や色などを生かして、その場を楽しい場所にしようと個人やグループで取り組みました。当然校内に展示するのですが、他の児童や先生方に見てもらえるように、展示場所の地図を作成し、拡大して掲示をしました。

どこに何があるかが分かると、見てみようと思うのが子ども。低学年の子が、地図を頼りに「全部見たよ」と教えてくれました。多くの人目に触れるのは、つくった子どもたちにとっても嬉しいものです。校長先生からは、「作品に毎日癒されます」と言葉を頂きました。今もその場に飾られ続けているものもあります。

この経験を他の題材でも生かそうと、「わたしのいい形（立体に表す）」で、つくった作品に合う場所を探して展示しました。こちらも地図をつくって拡大掲示。子どもたちにとっては、場所と作品とをつなげて考える機会になり、多くの人に見てもらえる喜びにもつながります。他の児童や先生方も、前回の取組を知っているので、温かく見守ってくれています。「展示していて、壊れたらどうしよう」という思いもありますが、壊れたら直せばよいこと。そして、大切につくっていることが分かるので、わざと壊したり触ったりする子はおらず、マナーよく見守ってくれています。



日常にあるアート。つくった子どもたちに見ている子どもや先生のお互いが、生活や心が豊かになることを感じてもらっているのでは、と思います。

これを拡大掲示。校舎図に合わせているので、大体の位置が分かります。



「わたしのいい形」の展示の様子。作品を展示し、タブレット端末で撮影しています。



作品を見ている6年生。通りすがりに見て、楽しんでくれました。

(中野)